

1 受賞団体・個人の名称

わのうにっこう

株式会社 和農日向 (山形県酒田市)

(問い合わせ先) TEL・FAX:0234-64-3820

(経歴) 平成14～ :集落協定の部会として稲WCS・堆肥散布の導入、受託作業開始。
平成17～19年:集落営農に向け研究会を発足、農地利用調整組織の設立。
平成19年:株式会社 和農日向 設立。

法人としてエコファーマー認定。水稻の特別栽培を実施。

平成20年:八幡土づくり組合のたい肥散布作業受託開始

平成21年:WCS用イネの品種比較、低コスト省力栽培実証試験開始。

(受賞時の経営内容) 食用米:32ha(うち特別栽培:3ha) WCS用イネ:7ha
WCS収穫作業受託:25ha そば、飼料用作物等:11ha
たい肥散布作業受託:45ha



2 生産面の取組

- ①県内で最初に導入した専用収穫機を効率的に稼働し、酪農・和牛繁殖経営向けの早刈り収穫、低β-カロテン含量を求める肥育経営向けの遅刈り収穫を組み合わせ、規模拡大を実現。WCSほ場現地において、IDシールを全ロールペールに添付し、トレーサビリティを実践。
- ②地権者が土地の貸付を取りやめ、主食用米の生産を再開した場合の異品種混入を予防するため、WCS用イネの品種は、食用米と同じ「ひとめぼれ」、「はえぬき」等を使用。
- ③飼料供給先である酪農家から牛ふん堆肥を購入し、集落協定組織や八幡土づくり組合からの委託など約50haの堆肥散布作業を実施。
- ④飼料用稲の品種比較や豚尿液肥による基肥・追肥の施用技術、鉄コーティングによる直播栽培など省力・低コスト技術の実証への積極的・継続的な実施。



3 経営面の取組

- ①主食用米・WCS用イネの耕起、代掻きや田植えなどの基幹作業は同従業員が行う一方、草刈や水管理は管理費で地権者が担うなどの役割分担や、ロールペールの配送を地域内の運送業者に委託する等、経営の外部化、合理化を実施。



4 取組の成果

- ①取組当初5haだった稲WCSの生産面積は、作業の効率化と乳酸菌製剤の利用や雑草、土砂の混入防止など、飼料品質の向上に努めた結果、自社所有地7haのほか、集落協定組織からの委託により収穫調製・運搬作業を行う25haと併せて約32haまで生産が拡大している。
- ②堆肥散布面積は平成21年度に35ha、平成22年度に45haと段階的に拡大し、集落内のみならず地域全体の耕畜連携を担っており、和農日向というコントラクターの存在が地域ぐるみの環境保全型農業の土台を支えている。
- ③庄内地域最大の牛乳生産量を誇る鳥海高原牧場をはじめとする、庄内地域の畜産経営に対して良質で安価な粗飼料を供給。
- ④良質で安価な稲WCSの安定供給による地元畜産経営の収益性確保に加え、生乳を原料とした加工業への発展(ヨーグルトの生産・販売、雇用の創出)にも貢献。



5 地域社会への貢献

- ①地域内の飼料自給率を向上させるとともに、安価な良質粗飼料の供給により、購入飼料費の低減及び収益性の向上につながるなど、大家畜経営の改善に貢献。
- ②八幡地域における耕畜連携の推進に加え、中山間地直接支払の協定組織及び部会活動による耕作放棄地や調整水田の解消にも大きく貢献。
- ③地域の障害者の自立支援のため、同社の生産ハウス内で管理作業や収穫作業を行ってもらい、障害者事業所が農産物販売を行うことに対して支援。
- ④山形大学農学部や各地の集落営農組織等の視察研修を受け入れることにより、堆肥を活用した耕畜連携の推進と稲の飼料利用の普及啓蒙。